

環境部長

特にゴミ減量プランの中では、低下率もあるので、詳細は後ほど担当から話をさせて頂く。

現行の昨年から本年度にかけての ゴみの低減率はあと 6 年、北部で言うともあと 8 年持たせる計画である。

専門家に聞かなければならないと思っている。

廃棄物減量等審議会についても専門的知識をお持ちの方にお呼びして、施設に関してその中で専門化知識を有する方に来て頂いて、ゴミ減量と併せて考え方なりを教えてくださいたいと考えている。

環境部 廃棄物減量推進課 参事

部長の回答につきまして少し数字を持って補足説明をしたい。

議員のお述べの、「(ゴミ減量実施プランでは、焼却炉の性能が毎年) 0. 2 % (低下していく)」というのは、施設の維持をしながら、緩やかにその劣化を抑制していこうとする中での減量プランの中で考えている。

実質的には、環境美化センターにおいては日量 180 トンの本来ならば処理能力があるところ、現在この 6 月でもお伝えしたところ 156 トン/日の処理しかできないという形である。これが平成 11 年に 180 トン/日の診断をし、この 24 年に 156 トン/日という処理能力になった。これを割戻すと年間 1 % ずつ下がるという形になる。

これをもって平成 32 年までになるが、実質入ってくる量と処理する能力を考えると、日平均 (ゴミ処理施設に) 入ってくるのは (平成 3 2 年で) 130 トンあり、それに対応してききほどの 156 トン/日、割戻すと年間 2 % 削減していく。ようは平成 32 年までずっと 2 % になる。これが最低ラインとなる。施設の方から見ると 1 % の落ちになる。

一定の差はあるが、平成 32 年にどれくらい持つかということになると、計画を前倒ししてゴミ減量を進めていくと、130 トン/日の 32 年から 28 年までに 4 年間前倒しすると、たとえば 2 % の 4 年間なので、8 % 前倒しすると、110 トンペースに落ち着くので幅ができる。

ましてや年々補修に係る費用が計画上が 27 年をピークに定期整備よりも 1.4 倍から 1.5 倍の計画量にしている。1 % にさがっているものを押し上げ、緩やかになり幅ができる。定期整備にプラスアルファした減量施策と補修整備で幅をもって施設を持たしていく。

以上